

平成28年度 第1回大樹町総合教育会議 議事録

1 日時 平成28年6月7日(火) 午後4時30分から午後5時45分

2 場所 大樹町役場2階 中会議室

3 出席者

(構成員) 大樹町長 酒森 正人
教育委員会
教育長 浅井 真介
教育長職務代理者 石山 新一
委員 辻本 正雄
委員 丹後 恵
委員 鈴木 珠世

(事務局)

布目副町長、松木総務課長、角倉学校教育課長、井上社会教育課長、和田学校教育課主幹、中村学校給食センター主幹、藤原総務課主幹

(傍聴者) なし

4 欠席者 なし

5 会議内容

午後4時30分 開会

事務局

みなさん、こんにちは。ただいまから平成28年度第1回目の大樹町総合教育会議を開催したいと思います。開催に先立ちまして、大樹町長酒森よりご挨拶を申し上げます。

酒森町長

お忙しいところをお集まりいただき本当にありがとうございます。平成28年度1回目の総合教育会議ということでご案内を差し上げたところです。昨年からこういう形で、私どもと教育に携わる皆様と一堂に会して会議をもてるということ、非常に楽しみにしておりますし、有意義な会議だなと思っているところです。今年度も、新年度に向けて教育関係で新たな動きが幾点か出てきているというふうに思いますので、この場で皆様

にご報告方々お話をさせていただきたいと思っておりますし、また、新たな取組みに対しても皆様からご意見をいただきたいと思いますと思っております。

先日、帯広の方で会議がありまして、竹林、十勝の教育局長とお会いしました。立ち話だったのですが、大樹町がいま取り組んでいる小中高の連携については大変いい取組みだということ、札幌の教育局長の会議の中でご発言いただいたとお聞きをしております。十勝の教育局としても大樹の取組みはとてもいいと評価をしているということでもありますし、大樹小学校が取り組んでおりました学校力の向上の授業についても先駆的な取組みであるし、大樹モデルといえるような全道的にも評価の高い取組みだという評価をいただいております。小中高の連携、非常にうまくいっているということ、そして、大人、先生方の繋がり、又は関係者の繋がりから今回熊本の募金の活動が子どもたちの中でやってくれたということ、この連携の動きが広がっているということ、大変心強いなと思っておりますので、ぜひ、この会議からも色々な部分の検討をして、また新たな大樹町の教育活動について発信をしていければと思っておりますので、限られた時間でありませけれども、忌憚のない闊達なご意見をいただけることを期待して、簡単ではありますがありますけれどもご挨拶とさせていただきます。今日はよろしく願います。

事務局

それでは、これより大樹町長の司会により会議を進めていただきます。

酒森町長

お手元の方に議案をお配りさせていただきました。今回、この会議の中で協議をしていく事項について、浅井教育長にどういことがいでしょうかとご相談申し上げたところ、子どもの学習習慣、運動習慣の定着について協議をしてはどうかということで、本日1点目としてご提案したいと思っております。内容の説明については、よろしく願います。

浅井教育長

その前に、今回このテーマを取り上げていただいたのですが、大樹町の子どもたち、学力については改善傾向はありますけれども、やはり依然として全道・全国と比較するとまだ差があります。体力についても差があります。そういった意味で、全国の調査結果を元にただいま言えることがありますので、子どもたちの学力、体力、生活習慣の定着について、教育委員会だけではなく、他の部局との関わりもあるので、今回共通理解を深めながら議論をしていければということで提案させていただきました。

子どもたちの状況については、事務局から資料を元に説明をさせていただきたいと思
います。

角倉学校教育課長

私の方から資料の説明をさせていただきたいと思います。大きいカラーのグラフの
入った A 3 版の資料でございますが、資料 1 から 6 までのつづつたものでございます。

まず、資料 1 は、大樹小学校 6 年生の学習状況調査の児童質問紙の集計でございます。
資料 2 については、大樹中学校 3 年生の学習状況調査の生徒質問紙の集計でございます。
2 8 年度と 2 7 年度の状況を比較したものを載せてございます。資料 3 から 6 につい
ては、2 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童生徒の質問紙を集計したも
のでございます。運動習慣に関連する項目をまとめたものです。資料 3 と 4 は大樹小 5
年生男女の状況です。資料 5 と 6 は大樹中学校 2 年生男女の状況となっております。

A 4 版のまとめですが、まとめ 1 は、先ほどの A 3 版のグラフを分析して整理し、ま
とめたものです。まとめ 2 は、2 7 年度の「学力」「体力」全国調査の本調査の結果の
概要をまとめ、課題を整理した内容でございます。

それでは内容に入っていきたいと思います。資料 1 でございますが、大樹小学校 6 年
生の学習状況の質問紙を整理したものです。 と のグラフでございますが、平日・休
日ともに学校の授業以外の勉強時間は、全道・全国に比べ短く、昨年度より減少傾向と
なっております。

続いて、 、 のグラフでございます。家で宿題をしている子の割合は、全道・
全国に比べやや少ない。復習・予習をしている子の割合は大きくなっております。

続いて、グラフ と でございます。平日のテレビ・ビデオ等の視聴時間は、全道・
全国に比べ短いですが、テレビゲームの時間は逆に長く、昨年度よりさらに増加
しております。

最後に と のグラフでございます。平日の読書の時間は、全道・全国に比べ短く、
昨年度より減少しております。ただ、放課後等での学校図書館や地域図書館の利用割合
は、全道・全国に比べて多い結果となっております。

資料 2、大樹中学校 3 年生の質問紙を整理したものです。グラフ と をご覧いただ
きますと、平日・休日ともに学校の授業以外の勉強時間は、全道・全国に比べ短く、昨
年度より減少となっております。

続いて 、 のグラフでは、家で宿題をしている子の割合は、全道・全国に比べ
やや多いですが、予習している子の割合は少なくなっております。

続いてグラフ、 ですが、平日のテレビ・ビデオ等の視聴時間は、全道・全国に比べ長時間の視聴は少ないものの、テレビゲームの時間は長く、昨年度より増加しております。

最後に と のグラフですが、平日の読書の時間は、全道・全国に比べて短いという結果が出ております。まったく読書をしない子が6割を超えています。また、放課後等の学校図書館、地域図書館の利用も、全道・全国に比べ少ない状況となっております。

資料1、2と合わせまして、大樹町の子どもたちの現状として、家での学習時間が全道・全国と比べ小・中ともに減少している状況です。小学生では家で宿題をしている割合が、やや全道・全国より少ないのですが、復習・予習は少し多い状況です。中学生は、宿題・復習をしている割合は全道・全国よりやや多いですが、予習をしている割合は少ないのが現状です。テレビ・ビデオ等の視聴時間は少ないものの、テレビゲームの時間は小・中ともに増えている状況です。また、読書習慣につきましては、小学生は平日の読書時間は、全道・全国より短く、減少しております。中学生は圧倒的に読書時間が短く、減少していることが課題として大きく浮かび上がっております。

続きまして資料3の説明に移ります。ここからは運動習慣関係でございます。資料3、4については小学校5年生の男女の集計でございます。最初に資料3の、 をご覧ください。運動が好きな児童の割合は、男女ともに全道・全国に比べ多いですが、1週間の運動時間は男子は少なく、女子は多い。

、 のグラフでございますが、家族から運動のすすめは男女ともに全道・全国より多いですが、家族と運動を一緒にする頻度は少ない状況です。

のグラフは、放課後や休日に投げる運動は、男女ともに全道・全国に比べ多い状況です。

のグラフですが、小学校入学前は運動遊びが好きな児童の割合は、全道・全国に比べ男子は少ないが、女子は多い状況です。

グラフの ですけども、休み時間の過ごし方、休み時間を体育館で過ごす児童の割合は、全道・全国に比べ多く、男子は9割を超えています。

続いて資料5と6の大樹中学校2年生のグラフを見ていただきたいと思います。最初に と のグラフ、運動の好きな生徒の割合は、全道・全国に比べ男子は多いが、女子は少ない状況です。また、1週間の運動時間については、男子は全道・全国に比べやや少ないが、女子は多い状況です。

、 のグラフですが、家族からの運動のすすめは、男女ともに全道・全国とほぼ同様ですが、家族と一緒に運動する頻度は、男子が全道・全国に比べ少ない状況です。

の放課後や休日に投げる運動については、全道・全国に比べ男子は多いですが、女子は少ない。

最後に のグラフですが、運動部等の所属は、男女ともに全道・全国に比べ所属率は高い状況です。

これらの運動部門のデータから、大樹の子どもの現状といたしましては、運動好きな子の割合は、全道・全国に比べ小学生は男女ともに多いが、運動時間は男子は少なく、女子は多い。中学生では運動好きは男子は多いが女子は少ない。運動時間では男子はやや少ないが女子は多い。また、小・中とも家族と一緒に運動することは少ないという結果が出ております。小学生は、入学前は運動好きだったという児童が男子は少なく女子は多い。休み時間は体育館で9割が過ごしている。中学生の運動部等の所属率も高く、投げる運動は男子が多く女子が少ないという状況です。以上で説明を終わります。

町長

いま、協議事項の1番目、子どもの学習習慣、運動習慣の定着についてということで、学力、体力全国調査の結果、まとめも含めて報告があったところです。ただいまの報告を聞いたなかで、それぞれ感じたこと、ご意見があればお出しいただきたいと思います。

教育長

まとめの2の表のところに、アンダーラインを引いたところは課題のある領域。小学校、中学校も書くことの能力が足りないということが顕著に表れている。アンダーラインをつけていませんが、体力の方も総じて男子も女子も小学校の走る力が足りないという結果が見られます。中学校は、顕著な課題は見られてないんですが、小学生の子どもについては走る力が足りない。運動会を見に行っても、走り方は得意でないというのは見受けられました。

それと、学力の方は、先ほどの資料の中でも、学校外での学習時間が総じて短い。それと、読書が少ない。特に中学校の子どもたちの読書習慣、環境は十分でなことがデータからは見て取れる。そういったことを議論の参考にさせていただければ。

町長

学力の関係では、教育長の補足の中にもありましたけれども、習慣づけるということが大事だと思います。家庭学習ももちろん習慣づけるということが必要なんですけども、学力の方でいちばんショックだったのが実は読書の関係です。これはもう明らかに読書をするということ習慣づけてあげないと、小学校の全国に比べて短い、昨年度よ

り減少しているという結果が、いずれ中学校に行くところという結果になって如実に現れてしまうというところがあるんじゃないかなというふうに思うんですが。丹後委員、この辺ご意見があれば。

丹後委員

私も前もって今回資料をいただいて、しっかり読ませていただいて、いま町長が仰ったところがいちばん気になりまして、それでいろいろ考えてみたんですね。今日そのことをみなさんにお訊きしたいと思って来ました。とても残念に思いました。大樹は昭和50年に独立館が建ってすばらしい活動をしてきた図書館というすばらしい下地があるのに、この結果というのはいったい何が原因なのかということをやっと考えてみました。ちょっとした指導、言葉掛けとか、立派な図書館があっても、きちっと蔵書も揃って充実しても、その中にいる係の人、司書の方のちょっとした声かけとか心配りとか、こんないい本あるよとか、その積み重ねじゃないかなというふうに考えて今日この場に来たんですけども。ショックでしたね。

町長

そうですね。

鈴木委員

読書をするきっかけって、これはいったいなんだろうって思うのがきっかけだと思うんですね。それをふつうにテレビを見ていて家族の中で話をする、その中でじゃあ調べてみようかとか、何か家族で話をするような機会も少ないのかなと思ってはいます。いろんな話をしているけど、じゃあ読んでごらんとか、こんな本あったよねとか話をしても、なかなか話も広がっていかないという現状は実際あるのかなと思うことと、学校からいただくお便りを読んでいても、作文を書く時間が圧倒的に少ないなと思っています。それは1年生のときからずっと思っていることで、行事のたびに自分が小学生のときだったら常に書いていたなという記憶はあるんですけど、いまの子どもたちは書いてる時間が、もしかしたら授業の中で取り切れていないのかなと思っています。年度末に書いたものをまとめて1年間分もらうんですけども、原稿用紙1枚の半分、書くか書かないかくらいの文章なんですよ。あれだとやっぱりいろんなことを考えながら書くっていうことは難しいかなと思っています。

町長

そこらへんがやはり、小学校も中学校も含め、教育長がまとめてくれた課題のアンダーラインのところについてしまうのかもしれないですね。書くことももちろん大切だし、読むことが今後に限らずどんな問題でも試験でも何を言ってるのかということが理解できないと答えは導いてこれないので、基本中の基本なので、そこは本当に大事ななというふうに思いますし、接する機会をつくってあげるというのも学校や保護者の責任というか役割だと思うんですね。単純に読みなさい読みなさいといっても興味がないとなかなか手が出ないので、そういうきっかけをつくってあげるという取組みが図書館にも学校にも保護者の方々にも求められるのかなと思います。

どうでしょうか。読書の関係、学力の関係で何か気づいたことがあれば。

辻本委員

昨年、学校力向上の関係で授業参観とか見せていただいて、子どもたちはしっかりノートをきれいにとって、まとめている。それが、この27年と28年を対比したときに、どうしてなんだろうと。学力が下がったとか、それだけじゃなくて、同じ指導を受けていてどこに問題があって、課題をクリアできなかったのか。子どもたちは真剣に授業に取り組んでいるし、聞く姿勢とか、学ぶ姿勢とか、僕らの子どもの頃より数段すごいなという感じはする。

教育長

今回のデータは各校長につくってもらいました。テーマをこのようにしたいので、学校長がこのデータを見て、課題を明らかにして、学校での授業改善に活かしてもらおうというのもある。学習時間が大きく落ち込んでいて、校長としても危機感をもって対応していきたいとのこと。中学校の方もこのデータをもったときに意見交換したときには、小学校は と は長時間は少ないけれども、比較的読書はそれなりに。特に は図書館を利用した子どもは多いんです。環境が整ってるので学習センターにも来るし、学校図書館も利用する。中学校の方が のまったくしないという割合が顕著なものですから、特に の年数回とかまったく行かないという子どもが多い状況が極めて顕著。中学生が学習センターの図書館に来る姿をほとんど見ない。土日も少ない。高校生も。場所の問題もあるんでしょうけれども、読書習慣が定着していないというのも校長と意見交換をして、学校図書館の活用の方法、読書を習慣づけるということは危機感をもって取り組んでいきたいと。ただ、読書環境が。学校放課後、あるいは土日に川を渡ってこちらに来るといふ子どもが少ない。そういった意味で本当は市街地に読書機能を持った学習スペース、学習を家でできない子どもたちが学べる環境を市街地の、たとえば福祉セ

ンターとかコスモール、ああいうところに放課後、土日に集まれるスペースがあって、読書機能も持ってという場所をつくっていくことができるとは思っています。

町長

たしか、小学校って学校の学級数に応じて司書教諭を配置しなければならないというのがあるはずなんですよね。この場で教えていただけるのなら、学校の司書教諭と図書館との連携みたいなものがどんな形であるのかなというところと、それが中学校の場合はどうなるかというのを、わかれば教えていただきたい。

教育長

小学校は12学級以上に司書教諭を配置、中学校は学級数に応じた司書教諭がないという状況。貸出しを担当する窓口の図書室担当の先生がない。

町長

仮に大樹小学校としても司書教諭という単独の先生が配置されているわけではなくて、資格を持っている先生が司書教諭としての発令を受けるということなので、なかなか特化したような活動が難しい部分があるかなと思います。

教育長

市町村によっては司書、学校司書。

町長

そうですね、学校司書。恵庭が配置しています。全学校に市が配置しています。自治体の思いとしてその部分を進めたいという強い意志がそこにあるとは思いますが。

丹後委員

中学校も同じような学級数に応じた司書を。

教育長

12学級で司書教諭なんですけれども、教員が司書担当として。いまは置いていない。いま、学校司書は教員でなくても司書の資格を持った人を司書として、積極的な読書推進の市町村は、配置している。

町長

いま、丹後委員から図書館のありかたについてご意見をいただいたところでもあります。僕は図書館を利用する方なので、いろいろ行くと例えば、本屋大賞の時期には本屋大賞のコーナーがあったり、がんばってやってくれてるなという思いはあるんですけども、如何せん、読書の習慣が身についていかないということがあれば、それは図書館の役割、そういう部分を担っていくという役割はあると思うので、ぜひ図書館としても守りの姿勢ではなく、来ないのであればこちらから行っちゃうぞくらいのことがあってもいいかなと思いますし、移動図書館というのものもあるのかもしれないけれども、中学校の中につくっちゃうとか、うちの公共施設につくっちゃうとか、いろいろ接する機会をつくっていくというのものもあるかなと思っています。ぜひ、読書に思い入れのある、興味のある方のボランティアみたいなものを受け入れ、担っていただけるようお願いなり、そういう取組みが必要なのかなと思います。読書って楽しいと思うんですよね。知らない世界を本を通じて知ることができるし、新聞記者にも料理人にもパイロットにもなんにでもなれますからね。そういう部分では読書というのは大切だし、楽しいなと思っています。

丹後委員

いちばん残念に思っているのは、中学3年生が本を読んでないということです。思春期のいろんなものを吸収するガラスのようなときに、残念だなと思いました。去年、中学校の図書室を見せてくださいって入ったんですけども、私の印象では、確かに蔵書もあって、ただ図書室があるっていう印象は言い過ぎかもしれないけれども、これじゃだめかなって。今回この資料を見て、やっぱりなるほどなと思いました。

石山委員

小学校の場合、学級担任制なので、そちらの方面に長けてないし、力の入り方も違う。昼休みや休み時間に5分でも10分でも読ませる先生もいらっしゃいます。授業参観日に行ってもふだんの姿は見えない。そうでないときに廊下から見させてもらおうと見えてくるものがあります。体育もそうです。アスリートの先生がいたら、岩田学先生とか。中学校の方でも指導してるそうですが。

教育長

今年度、図書館の方で読書の計画をつくります。

井上社会教育課長

今年度、子どもの読書計画ということで、29年度までにつくらなければならない計画がございまして、6月28日に道立図書館の方をお呼びしまして、計画の策定方法等、図書館運営委員さんを含め、計画策定に向けて進めてまいりたいと考えております。

丹後委員

ぜひ、図書館に置く本として、古典だとか歴史書だとか、最近個人的に感じることもなんですけれども、ずっと読み継がれてきているものには、やはり何かすごくいいものがある、ですので、ぜひ古典の小学生とか中学生とか、マンガでもいいと思うんですけれども、ぜひそういうものを揃えていただきたいなと思っているんです。私の齢になっても、日本人としてとか、生きる術とか、ずっと読み継がれてきているものには変わらない、人間の生きていく上でのものがあるんじゃないかなと思いますので、ぜひ古典とか歴史関係の本も入れていただけたらなと思います。

町長

石山委員から体力の話も少し出ましたので、体力の関係、もしご意見等があれば、ここ2年くらいヤマダ電機の陸上部が大樹に、網走方面の合宿の後に寄ってくれているので、今年もまた来てくれるかなと思っていますし、今年オリンピックの年ということもあって、パラリンピックの候補選手の合宿を大樹でやっていただけることになってます。7月28日から8月3日まで、為末大さんがチームを持っていて、その選手が来てくれることになっています。実際、運動は帯広の森を使ってやるんですけれども、前半の3日間は大樹で合宿をしてくれるということで、7月30日に大樹町で子どもたちを対象に候補選手と一緒にワークショップを開いていただけることになっています。パラリンピックの候補選手なので、健常者の方々にも義足を体験できるようなものがあるということで、運動のできるできないに関わらず、まったく普段運動をしない子を含めて、ぜひ参加していただきたいなと思っています。そういう部分で、いろんな形でトップアスリートの方々に大樹にお越しいただいて、実際に走るなり、いろんな競技を見ていただくことで、子どもたちに少なからずいい影響を与えていただけるかなというふうに思いますし、走り方ひとつとっても、先ほど石山委員も仰ってましたけれども、正しいものを教えてあげることが、早い段階で体験させてあげることが、体力に限らず学習もですけれども、身につけていく伸びる要素になるのかなというふうに思います。

石山委員

札幌市が運動会の前に走り方の講習会をするとか。

町長

運動苦手な子にトップアスリートが走り方を教えて、記録が伸びるみたいな。

丹後委員

合宿はどこでされるんですか。

町長

御縁があって、大樹の宿泊場所はメムメドウズを使うことになってます。ワークショップは、いまのところ……

井上課長

候補地は、中央運動公園の野球場、柏木町の運動公園。芝を使いたいという要望があるものですから。もしくは雨天のことを考えて高校。いま3箇所くらいを候補地として挙げておまして、向こうの方で検討していただいているところです。

町長

先日、候補選手の中京大学2年生の男の子と義足をつくっている会社の方が大樹に入られて、現地を見て、どこでどういう形でやろうかということの下見をしてくれました。大学生の子も手が不自由なだけけれども、元気なアスリートで。

辻本委員

調査の時期は、ある程度同じにしたんですか。

教育長

調査の時期は、学校で選べる。運動会の前後になっているところが最近多い。ちょうど体を動かす訓練をしながら測定するというのが、だいたいどの学校でもふつう。この調査でちょっと気になるところは、小学校5年生、資料3の の入学前は運動遊びが好きだったかという質問に対し、嫌いという答えが顕著に出ている。小学校入学前の運

動遊びが定着していない。女子もそうなんです。好き、やや好きは同じくらいですが、嫌が多い。

石山委員

外で遊ぶ習慣が最近なくなっている。塾へ行ったりとか。少年団に入ってる子は一生懸命だが。

教育長

幼少期の運動の習慣づけというのが課題なのかなと思ひまして、アスレチックみたいな施設が少ないのかなと。

石山委員

小学校の先生が体育館に子どもたちを集めて、平均台や跳び箱をセットして遊んではと思いますが、先生が足りない、危ないと。子どもはそういうのが好きなんです。

教育長

中学校は、運動部の所属率が非常に高い。中学生の体力は全国レベルです。小学校でなんとか持ち直すものの、入る前に課題があるのかなと。結果をできるだけ、保護者にもお知らせするというのが大事、実態をお知らせして協力してもらおう。

辻本委員

僕の場合、認識が少し違っていて、体力の、例えば50メートル走が遅いとか、先ほど町長も仰られたように、ちょっとしたアドバイスで変わってくるということもあって、それが体力がないのか、たまたまそういう機会がなかったからデータとしてそうなっているのか、決して運動能力がないとか体力がないとかというのはという思いもあるんですよね。特に今回50メートル走、反復横跳び、これ10分練習したらぜんぜん違うんですよ。要領がわかってくる。あまり一喜一憂することはないのかなという思いはあります。

石山委員

マット運動とか学校で見させてもらおうと、前転できない子に先生がちょっとサポートするとすぐできるようになったり。

辻本委員

この調査の前の年の学年でこういった運動が入っていると、ぜんぜん変わったデータが出てくるかなと。

教育長

質問紙なので子どもの捉え方次第で変わってくる。

石山委員

前によく小学校でなわとびをやってました。最近どうなのか。

鈴木委員

そういえばやってませんね。

教育長

学校にデータをつくってもらって、学校での現状をまずは認識してもらって、改善してもらうことを基本に。

町長

それはいいと思います。

石山委員

話は変わりますが、読書も課題。

丹後委員

宇宙関連の入口の看板がぐるっとあっても、借りてる姿を見ることはないかなと。

石山委員

子どもに読みなさいといってもだめ。後ろ姿。親が本を読まないと。

町長

家庭で読書の習慣をつけるという部分で、それはあると思います。親がいくら読め読めと言ったところで、親が読まずにテレビばかり見てたら、子どもだって読まないです。

丹後委員

この間、帯広の図書館に行って、カウンターの辺りでうろうろしてたら、係の女の方が声をかけてくださって、図書カードつくられますかって。つくれるということを聞いてたので、2週間に1回なら借りようかなと思ってたら先に声をかけてくださった。これってすごく大事。そういうちょっとした親切でひとの気持ちって動くんじゃないか。子どもだったら、そうしたちょっとした声かけがきっかけになる。細かい配慮が必要かなと。

町長

図書館に限らず、私どももサービス業でありますので、そういう心遣い、思いは必要だと思います。どの場面、どの職種でも。

丹後委員

エレベータまで連れてってくれたり。とかちプラザで去年の体験なんですけれども、大分高齢だと見られたのか。ありがたかったです。

図書館で有名なのが幕別図書館ですよ。ビブリオバトルっていうことをやってまして、自分の気に入った本を何人かグループで紹介しあうということなんですけれども、子どものビブリオバトルもあるんです。自分で思ってるだけではなく、他人に発表しなければいけない機会があるのとないのとではぜんぜん違うと聞いていて感じますし、自分もそれに参加してみて、下調べもしないといけないし、一生懸命読まなければいけないので、そういう機会をひとつでもふたつでもあればいいのかなって。学校の中でもかたんにできることだったりするので、クラスの中で授業のひとつとしてあったらどうでしょう。

町長

理解してないと聞き手には伝えられない。

石山委員

読む、書く、書かなくても発表する、感想をいう。感想文なんか見たらすごく立派ですよ。冊子になってるのを見たら。

鈴木委員

中学生の感想文を読ませてもらう機会があったのですが、読んでる本自体がちょっと悲しいなって思う内容だったり、読む機会は小学校のうちから習慣づけないと。

石山委員

さっき丹後委員からお話がありましたが、平成24年に古典の日という法律ができて、11月1日は古典を読む日と法律で定められたから、やらないといけない。

辻本委員

広尾町は朝読書は止めたんでしょうか。

教育長

朝読書はどこでも、うちもやっています。

町長

協議事項として用意しているのは、子どもの学習習慣、運動習慣の定着についてということで、先ほど申し上げた学力・体力調査の結果についての部分ですが、せっかくの機会でもありますので、その他に何か教育全般、この会議でお話しいただけるような項目があれば、お話しいただければと思います。

石山委員

昨年の会議で、肥満度の一覧表をいただいたんですが、子どもの肥満をどうするかという道新のシリーズ記事がありました。将来齢をとったときに繋がるのでもうちょっと生活のリズムというか運動をしないといけないのではないかと。

町長

うちもたいきっず検診で血液検査とかやってるんですが、香川県だったか、ひとつの市が子どもの血液検査を義務付けて実施したら、それがすごく効果があるということで、県がやってる。

石山委員

それとヨーグルトを子どもたち全員に飲ませているところがある。風邪をひかなくなった。

町長

教育長、6月から学校にスクールカウンセラーを配置してくれることになったとか。

教育長

なかなか、スクールカウンセラーの確保が難しく、やっと大樹に来てくれるカウンセラーが見つかった。ただ、基本が週1回くらいの予算でついているのが、週1回までは来られず、他の学校も掛け持ちして隔週、その分長時間、5時間、6時間来てくれる。先日、2日が1回目、早速その日に先生からの相談があった。本別と帯広市内で掛け持ちしてる先生で、保護者からの相談も多くなっている。最近、小学校の子どもたちの相談もニーズが高くなってきているということで、二学期からは中学校にも行ってくれる。隔週で大樹に来てくれる先生が決まっているというところでスタート。町単独で設置しているところもあります。広尾町も希望していて、広尾は月1回。離れた所にはなかなか。

石山委員

中学校は先生方がカウンセリングのお話を聞いているし、勉強している。

辻本委員

先生方は基本的には、いろいろ教えてもらってスキルを持ったとしても、異動があります。直接保護者が関われる形がいちばんベストなのかなと思っているんですけど。

教育長

ソーシャルワーカー、家庭の領域にも踏み込んだ相談のできる先生がいるので、次年度できれば手を挙げていきたい。両方希望するところも増えている。スクールカウンセ

ラーは、校長先生に今日はどんな相談でしたかと訊かれても守秘義務があるので教えな
いと告げて、子どもたちから相談を受けると。

辻本委員

信頼関係をつくるのがたいへんですね。

教育長

中学校に不登校が1名いるので、その子を次回面談できるように。

町長

今日も午前中、高校の校長先生に来ていただいて、教育長と高校でこれから、いろん
な取組みを進めていることがあって、今年度中に体制をつくって新年度からスタートし
たい、又は3年後を目途にスタートしていくための準備を始めたということなので、い
ろいろな部分で、この4月に来た校長先生なんですが、積極的に取り組んでくれてい
るので非常にありがたいなと思ってますし、地元にある大切な高校でもありますので、今
後とも大樹高校が地域に愛されて、みんな大樹高校に行こうと思うような特色ある学校
づくりをしていかなければならないなと思ってますので、そういう取組みを進めてい
るところであります。予算の絡むものもあるので、まだまだ皆さんに報告できるような
段階ではないのですが、形が出来てくればきっと学校のため、生徒のために有意義な取
組みになるんじゃないかなと期待を込めて進めているところです。

ほかに、何かあれば。

教育長

全体的に暗いイメージを持たれたかと思うんですけども、もちろん大樹の子どもた
ち、いいところも多くあります。今回は課題をピックアップしたということで、ご承知
置きいただければと思います。

丹後委員

学童保育について知りたいなと思ってましたら、今日の道新に鷹栖町の取組みが載っ
ていて、大樹の実態はどうなのかなと思っていたので、たいへん関心を持って今日道新
を読んでいたのですけれども、学童保育はとても大事なことじゃないかなと。というの
は、私の孫がだんだん大きくなってきて、母親が働くようになって苦労している、そう
いうのを見ているものですから、実態を知りたいなと。

町長

もともと北保育所で、法人が青館でやってくれていたのですが、いまはもう施設がないので、武道館で仮にやっている状況です。体育関係の方からも、あそこはもともと武道館なので、武道館として利用したいという申入れがあります。武道館にある研修室を学童用の部屋として使っているのですが、行政区でもそこを使っているの、行政区からも仮に学童をやっているのだから、正規な形で早くやっってくださいねという申入れを受けています。いまうちの学童は3年生までをお受けしているんですけども、申込みが75人くらい。常時来てくれるのは50人前後だと思います。あそこのキャパからすると、もう実はいっぱいいっぱいなんです。学童保育については、総合計画の中でも町として新たなところでやっていかなければならないと出ているので、進めるべき話なんですけれども。

第5期総合計画が26年度からスタートしており、そのあとに地方創生という国全体の動きがあって、その中で少子高齢化なので子どもの対策を重点的にすべきだという方針が示されたこともあって、町として公共施設の設置のあり方をどうしていくかということ、これを内部で議論している。そのプロジェクトチームの中で、最優先にすべきだということ、これを打ち出しているのが役場庁舎と学童保育です。学童保育のあり方を相当長い間、半年以上かけて議論いただいて、ある程度方向性が出てきたので、それを議会とか町民の方にお示しした中で、方向性を定めて、基本設計、実施設計を含めて、設置していきたいなという思いでいます。予算の絡む話ですし、議会にもまだお示ししていない話ですけども、いまのところは新たな施設を学校の近くにつくって、そこで学童保育を運営できないかという思いで皆様に説明をしていこうかなと思っています。

その中でいろいろ、既存の施設を使えないか、福祉センターを学童保育の施設として活用できないかとか、検討はしたのですが、なかなか改修の部分も含めて、費用対効果も考えると厳しいので、学童としての適切な必要な施設をつくって運営していった方がいいんじゃないかということもあって、これからスタートしていかなければならないなと思っています。

国の方も、うちはいま3年生までですが、特別な事情がある児童はその上の学年も受けていますけれども、国は6年生まで学童保育しなさいという方向なので、その段階でいまの人数の倍、とは言わないまでも75人が100とか110人とかということになるので、それ相応の施設運営が必要だなと思っていますし、実は高学年まで見たときに、1年生から6年生まで新しくできた学童保育の施設で保育をする、6年生に保育という言い方は失礼だけれども、僕は必要ないんじゃないかと思っています。たとえば学習センターがあるので、あそこで学童保育とは別に英会話教室でもいいし、絵画教室でもいいし、そろばん教室でもいいので、そういう高学年向けの居場所をつくってあげるという

方がいいかなと。一度に110人を常にこの施設に集めるということは、僕は必要ないんじゃないかなと思ってるので、学童保育は学童保育としてやっていく施設の運営があってもいいし、それに付随するようないろいろなボランティアの方とか高齢者の方とか教えてもらえる方々がいれば、そういう方々にいろんな教室なりを運営してもらえれば、子どもたちにいろいろなことを体験をさせる場もできるんじゃないかなというのもあって、そこを抱き合わせでやっていけないかなと思ってます。北保育所でやっていたときにも、近隣のお年寄りが将棋を教えに来てくれたりとか、かるたをやってくれたりとかということもあったので、町民の皆様のお力もお借りしながら、子どもたちに学童保育を通じていろんなことができるような場をつくっていきたいという思いは持ってます。職員も最優先は学童保育だとみんな言ってくれたので、そこはこれから考え方も含めて、これから夏、オープンにして上で議論いただきたいなと思ってまして、そこを子ども・子育て支援会議という町全体の子どもに関する組織もあるので、そこにお諮りをして伺っていききたいなと思っていますところなんです。

辻本委員

いま町長から学童保育のことでお話しいただいたところですが、一昨年でしたか、温水プールを学童保育と併設という構想、検討していると聞いていたんですが。

町長

知内でしたか、そういう施設ができたと聞いて、僕がイメージしている施設と同じだったので、教育長に無理を言って知内まで行ってもらって見てもらいました。プールは僕の公約で改修したいという思いがずっとありました。ただ、うちのプールはB & G財団がつくってくれたもので、B & Gとしてもプールの改修に向けて財団としての対応等もあって、相談をして進めているところです。どういう形ができるか、新築そのものができるかというのもいろいろあるんですが、そういうことも含めて、教育長とこの1月にも全国サミットがあったので、顔を出した次の日に財団に直接出向いてプールの改修についてお願いもしたし、手続き的なことも含めてご相談をしているということもあります。

うちのプールを財団が設置したということもあるので、その御縁は御縁として今後とも継続していきながら、どういう形でできるかというのを検討していききたいなと思ってます。僕は単体でやろうかなという思いもあったので、公約にあげたんですが、財団とのお付き合いもいろいろあるし、施設の関係で補助もいただけるということもあるので、どういう方法が採れるかということは、いま財団の方と進めているところです。

ほかに、ご意見があればお出しただければと思います。よろしいですか。今年度第1回目ということで6月になってしまったんですが、昨年は12月に第2回目をやっておりますので、またぜひ、少なくとももう1回はこの会議を持たせていただいて、昨年度のこの会議で出たご意見を反映して予算に計上したものの、英語指導助手とか、そういう部分もやっておりますので、また、少なくともその時期にはもう1回やりたいなと思っておりますし、この会議の性格上必要であれば、子どもの関係で緊急を要する場合については適宜やるということでもありますので、少なくとももう1回はやりたいと思っておりますし、案件があればいつでもお集まりいただいて相談させていただきたいなと思っております。

本年度第1回目ということで、お集まりいただきましたが、所定の時間を10分程度オーバーしてしまいました。この後別席がありますので、そこでもまたいろいろなご意見を伺えればなと思っております。第1回目ということではありますが、この辺で閉じたいと思います。よろしいですか。では、今年度第1回目の総合教育会議をこれで閉じたいと思います。いろいろご意見をいただいたことを参考に、教育委員会とともに町もしっかりと教育を担っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。では、これで終わります。ありがとうございました。

午後5時45分 閉会

以上、会議の顛末を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成28年11月30日

議長 酒森正人

委員 浅井真介

委員 石山新一

委員

委員 丹後 恵

委員 鈴木珠世